

先日、市民タイムス主催の「大系線応援ツアー・のんびり鉄道日帰り旅」に参加した。大系線は若い頃、上越市の谷浜へ海水浴に行くために何回か乗っただけだった。

南小谷駅から糸魚川駅までのディーゼル車への郷愁、そして9年前に起きた糸魚川大火の復興の見学に期待を込めて、松本からバスに乗りし、変わりゆく山々の紅葉を堪能しながら南小谷

駅へ向かった。駅の脇には地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」のトンネルが見えた。やがてこの道路が完成したときには大系線はどうなるだろうかと、ふと思った。

糸魚川市で見学した翡翠園、玉翠園・谷村美術館は見応えがあった。その後、糸魚川駅前の街づくりを見学した。火災は平成28(2016)年、暮れも迫った12月22日に発生した。火の手は山からの風にあおられ

て瞬く間に燃え広がり、街を焼き尽くしたという。テレビの映像を思い出したが、その場所は見事に復興していた。

観光協会のガイドさんによると、焼け出された高齢の住民の皆さんが自宅の再建を諦めて土地を市に提供したため、広い道路が確保できて火災に強い街づくりが早期にできたとのことだった。公民館の地下には

糸魚川への旅

大きな貯水槽が完備され、いざというときには消火に

使用することなど説明を聞いた。いい旅になった。

8日付本紙に火災予防を呼び掛ける街頭啓発活動の記事が掲載され、松本蟻ヶ崎高校書道部の書道パフォーマンスの写真に「油断大敵」の文字があった。絶対に火事を出さないように心掛けねばならないと思った。

(安曇野市穂高、荻原義重、81歳)

点差 □ こうさてん